

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2単位	学年	1年次～
使用教科書	教育出版「音楽Ⅰ Tutti+」				
副教材等	教育芸術社「音楽の鑑賞資料と基礎学習」				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を、時間をかけて丁寧に育てます（涵養します）。 ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます。 ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化・歴史的背景などとの関わりや多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、愛好する心情を育み、感性を高め、音楽文化に親しみ、生活などを豊かなものにしていく態度を養う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む価値を実感させる。 ・音楽を通し、豊かな情操を育てる。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付けている。	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、その関わりを考え、表現意図をもったり、よさや美しさを味わって聴いたりしている。	音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価方は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・歌唱、器楽、創作の演奏、作品の分析 ・練習過程 ・鑑賞ノート、基礎学習問題などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・歌唱、器楽、創作の演奏、作品の分析 ・練習過程 ・鑑賞ノート、基礎学習問題などの内容の確認 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・演奏や創作、鑑賞への取り組みの観察 ・練習、創作過程、鑑賞ノート、基礎学習問題などの確認 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	時間	評価方法
4	・オリエンテーション ・校歌 (歌唱)	6 A 表現	校歌 J-POP	・親しみやすい校歌を歌い合わせる楽しみを味わいながら高校の音楽学習への意欲を持つ。	abc	6	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の様子 ・演奏・作品の内容 ・基礎学習問題 ・作品の内容 ・鑑賞ノート
5	・日本歌曲 (歌唱)	5 A 表現 1 B 鑑賞	この道 浜辺の歌 他	・日本語の特性を理解し、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	abc	6	
6	・リコーダー アンサンブル (器楽)	12 A 表現	メヌエット いつも何度でも リコーダー運指表	・楽器の奏法を身につける。 ・技能の習熟度に応じた音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。	abc	1 2	
7	・旋律創作 (創作)	6 A 表現	音のスケッチ 言葉を生かして 旋律をつくる	・日本語の言葉の特性を理解し、自己のイメージをもって旋律をつくる。	abc	6	
8							
9	・西洋音楽の源流を耳 でたどる (鑑賞)	5 B 鑑賞	グレリオ聖歌 ヴィヴァルディ パッサ	・西洋音楽を鑑賞し、そのよさや美しさを味わって聴く。 ・鑑賞ノートの作成。	abc	5	
10	・歌の旅 (歌唱・鑑賞)	6 A 表現 2 B 鑑賞	イタリア語、ド イツ語、フラン ス語の曲	・言葉の抑揚や言語のもつ質感を捉えながら表情豊かに歌う。聴く。	abc	8	
11	・キーボード (器楽)	12 A 表現	習熟度に応じた 曲	・楽器の奏法を身につける。 ・技能の習熟度に応じた音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動の楽しさを味わう。	abc	1 2	
12	・世界のさまざまな音 楽の魅力 (鑑賞)	8 B 鑑賞	和楽器の音 世界の楽器の音	・雅楽の楽器、音楽に関心をもち、よさや美しさを味わって聴く。 ・日本の楽器と諸民族の楽器との比較を通して、音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。鑑賞ノートの作成。	abc	8	
1			世界の声の音楽	・世界の諸民族の声の音楽と日本民謡の比較を通して、音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考える。鑑賞ノートの作成。			
2							
3	・クラスコンサート	6 A 表現 1 B 鑑賞	音楽 I で学習し た教材	・音楽 I の学習のまとめとしてコンサートを企画、実施する。 ・グループやソロ、歌唱や器楽のさまざまな形で演奏、鑑賞し音楽活動の喜びや楽しさを味わう。	abc	7	

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

歌唱、器楽のテスト。プリント、感想文の提出。

8 担当者からの一言

幅広い音楽活動を通して、精神的、社会的な自立を目指し、音楽によって生活や社会を希望ある明るく豊かなものにしていってほしいと思います。

教科(科目)	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2 単位	学年	1 年次～
使用教科書	光村図書「美術1」				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を、時間をかけて丁寧に育てます（涵養します）。 ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます。 ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と関わる資質・能力を育成することを目指す。
(1) 対象を捉える造形的な見方などの基礎について理解を深め、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする。
(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値観をもって美術に対する見方や感じ方を深めたりすることができようにする。
(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かに創造していく態度を養う。

3 指導の重点

造形表現における基礎的な知識・技能の習得を目指し、発想から主題を自己決定し表現する力、豊かな情操と美術に取り組む態度を育てる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象を捉える造形的な見方などの基礎について理解を深めている。また、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや表現の意図などについて考え、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術文化に親しみ、主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価方は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・制作のためのプリント、スケッチなどの構想過程の資料の分析 ・作品の分析 ・制作カード、レポートなどの内容の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作のためのプリント、スケッチなどの構想過程の資料の分析 ・作品の分析 ・制作カード、レポートなどの内容の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・構想や制作への取り組みの観察 ・構想過程の資料、作品、制作カードなどの確認 などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	時間	評価方法
4	・オリエンテーション (鑑賞)	3 B鑑賞	作家の生涯と作品	・「美術I」の学習について。 ・教科書を使った鑑賞。	bc	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の様子 ・構想過程の資料の内容 ・作品の内容 ・制作カード、レポートの内容
5	・レタリング・色彩構成 (デザイン)	12 A表現 2 B鑑賞	メッセージを広く伝える	・文字の描き方の基本を理解する。 ・色彩や構成の基礎、絵具の特性と塗り方の技法を学ぶ。テーマを設定して、色彩構成を行う。	abc	1 4	
6							
7	・写真 (映像メディア表現)	3 A表現 1 B鑑賞	テーマを決めて撮影する	・テーマを設定して、構図やアングル、光と陰などを考えながら撮影する方法を学ぶ。	abc	4	
8	・デッサン スケッチ (絵画)	12 A表現 2 B鑑賞	身近なものを描く	・造形的なものの方について学習し、形や陰影、立体感の表現について学ぶ。 ・静物をモチーフとして、構図の取り方を学ぶ。	abc	1 4	
9							
10	・油彩画 (絵画)	12 A表現 2 B鑑賞	身近なものを描く	・静物をモチーフとして、油絵の具の使い方や塗り重ねのプロセス、立体感や空間の表現について学ぶ。	abc	1 4	
11							
12	・彫塑 (彫刻)	12 A表現 2 B鑑賞	自己をあらわす 生命感をあらわす	・今の自分について考えテーマを生成し、テーマに沿って具象、抽象などの形象で創造的な表現の構想を練る。 ・スケッチを基に芯を作り、粘土を使い、立体で表現することを学ぶ。	abc	1 4	
1							
2	・鑑賞	7 B鑑賞	作家の生涯と作品	・画集等を利用して、作家研究の鑑賞レポートを作成し、模写の制作を通して理解を深める。 ・1年間の学習を振り返り、学んだことを整理する。	abc	7	
3							

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

主題生成や構想過程の資料、作品、制作カード、レポートの提出

8 担当者からの一言

主体的に授業に臨み、造形体験を増やししながら、自己の感性や表現力を身に付け、美術を学ぶ価値を実感してほしいと思います。

教科(科目)	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2 単位	学年	1 年次～
使用教科書	光村図書「書Ⅰ」				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を、時間をかけて丁寧に育てます（涵養します）。 ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます。 ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書の見方・考え方を働かせ、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
(1) 書の表現方法や形式、多様性などを幅広く理解し、書写能力の向上を図り、伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想・表現を工夫したり、伝統と文化に意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、伝統文化に親しみ、感性を高め、書を愛好する心情を育み、心豊かに創造していく態度を育てる。

3 指導の重点

様々な書の美にふれ、表現技術を高め、豊かな情操を育む。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現方法や形式、表現の多様性について幅広く理解し、書写能力を向上させ、伝統に基づく効果的表現の基礎的な技能を身に付け、表現している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想・表現を工夫し、伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えている。	主体的に書の表現・鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価方は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・制作のためのカードの内容確認 ・作品の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作のためのカードの内容確認 ・作品の分析 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作への取り組みの観察 ・作品、制作カードなどの確認 などから評価します。
	内容のまとめりごとに、各観点「A:十分満足できる」、「B:おおむね満足できる」、「C:努力を要する」で評価します。内容のまとめりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	時間	評価方法
4	・オリエンテーション ・作品鑑賞(鑑賞)	3 B鑑賞	書写から書道へ	・書道で学習することを理解する。 ・教科書の作品鑑賞。	bc	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の様子 ・制作のためのカードの内容 ・制作過程の作品、完成作品の内容
5	・筆による基礎表現 (漢字の書)	3 A表現 1 B鑑賞	文字の造形を学ぶ	・文字の造形について学ぶ。	abc	4	
6	・漢字の書(漢字の書)	12 A表現 2 B鑑賞	さまざまな書体 (楷書・行書)	・漢字の変遷と書体を知る。	abc	1 4	
7	・篆刻	12 A表現	篆書の特徴	・漢字の変遷と書体、篆書について知り、文字の特徴を彫る技法を学ぶ。	abc	1 4	
8	・細字(漢字の書)	2 B鑑賞	生活の中の書	・生活の中の生きた書を学ぶ。			
9	・漢字の書(漢字の書)	12 A表現 2 B鑑賞	さまざまな書体 (楷書・行書)	・漢字の変遷と書体を知る。	abc	1 4	
10	・仮名の書(仮名の書)	12 A表現 2 B鑑賞	仮名の種類	・仮名の成立と種類、造形技法と表現について学ぶ。	abc	1 4	
11	・漢字仮名交じりの書 (漢字仮名交じりの書)	6 A表現	メッセージを文字で	・漢字仮名交じりの書を使い、伝えたいメッセージを書で表現することを学ぶ。	abc	6	
12	・鑑賞(鑑賞)	1 B鑑賞	書道Iで学習した教材	・さまざまな表現方法を鑑賞する。	bc	1	
1							
2							
3							

計70時間(50分授業)

7 課題・提出物等

制作のためのカード、制作過程の作品、完成作品の提出。

8 担当者からの一言

作品制作を通して自己の表現力を身につけ、書を学ぶ価値を実感してほしいと思います。